

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。  
プライス・コード{a ¥ 1 6 9 0 / A ¥ 1 8 9 0 / B ¥ 2 0 9 0 / C ¥ 2 2 5 0 / D ¥ 2 4 9 0}  
(表示価格は税抜き) 別途消費税が加算されます

[www.tambourine-japan.com](http://www.tambourine-japan.com) email: [song@tambourine-japan.com](mailto:song@tambourine-japan.com)

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

[CD/USA {female}] (P14) [CD/CANADA] (P19)

[DVD&CD/USA]

※国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- \*STEVE EARLE:Live From Austin Tx (DVD) B  
\*STEVE EARLE:Live From Austin Tx (CD) A  
(2000年11月、Austin City Limits でのライブ。バックは Eric Ambell {ギター}、Kelly Looney {ベース}、Will Rigby {ドラムス}。全15トラックの74分。2008作。New West)

[DVD/USA] NTSC all regions

※国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- \*BRUCE SPRINGSTEEN:Classic Performance A  
(B. Springsteen の初期のベスト・ライヴ集。全14曲。1988年/2005年。American Legends)  
\*EMMYLOU HARRIS:Live In Germany D  
(2000年の Spyboy をバックにしたドイツでのライブ。全13曲。2011作。Immortal)  
\*BOB DYLAN:Don't Look Back C  
(1965年イギリスツアーのドキュメンタリー。1時間35分。67/99作。Docurama)  
\*CROSBY, STILLS & NASH:Live In L. A. A  
(1982年ロサンゼルスでの New Universal Amphitheater でのライブ。全23曲で80分。2007作。オランダ Immortal)  
\*BIG BROTHER AND THE HOLDING COMPANY:Hold Me A  
(2007作。Dig Music)  
\*GRAM PARSONS:Fallen Angel A  
(ドキュメンタリー-DVD。103分。2006作。Rhino)  
\*ANI DIFRANCO:Trust A  
(2004年5月11日&12日の二日間行われた Washington DC のクラブでのライブ。全21曲。2004作。Righteous)  
\*STEPHEN STILLS AND MANASAS:The Best Of Musikladen A  
(72年のテレビ・ショーのライブ映像。40分。Pioneer)  
\*WILLIE NELSON:Willie A  
(91年の“The Great Outlaw Valentine Concert”{全14曲}と  
“Nashville Superstar Concert”{全12曲}。88分。2002作。MVD)  
\*TONY JOE WHITE:In Concert A  
(92年ドイツのライブ・ハウスでの熱いライブ。全11曲。約60分。ドイツ Inakustik)  
\*JOHN DENVER:Montana Christmas Skies A  
(全14曲。47分。99作。Delta)  
\*DUKE ROBILLARD:In Concert A  
(94年ドイツのテレビ出演時のライブ映像。全10曲。2001作。ドイツ Inakustik)

### [DVD/U S A] PAL all regions

※PAL 専用 DVD プレイヤーかパソコンで再生可能

- \*WILLIE NELSON&LEON RUSSELL: In Concert a  
(Paradise Show のライヴ。Leon [ヒア] と Willie [ギター&ヒア] のアコースティックなソングデュエットそして Maria Muldaur&Bonnie Raitt そしてフルバンドの数曲は二人の持ち味がたっぷり楽しめるライヴ。55 分。2005 作。ドイツ All Stars)
- \*JAMES TAYLOR: In Concert a  
(副題 "You've Got A Friend"。バンド付き 18 曲入りライヴ。"Sweet Baby James" から変わらぬ James の温厚な人柄がそのままかつ音楽性もシンプルなのからポップでファンキーなのまでそのままの温かいライヴ。2004/2005 作。82 分。ドイツ All Stars)

### [DVD/U S A] NTSC Region 1

※NTSC Region 1 専用 DVD プレイヤーかパソコンで再生可能

- \*JIM GROCE: Have You Heard — Live A  
( "You Don't Mess Around With Jim", "Operator", "Bad, Bad Leroy Brown" 他全 15 曲入りライヴ。約 1 時間 10 分。2003 作。Shout)

### [DVD-AUDIO/U S A]

※国内製 DVD プレイヤーで再生可能

- \*JOHN SEBASTIAN: From The Front Row, Live ¥1000  
(全 16 曲入り弾き語りライヴ。画像はライヴ映像ではなく、1 曲 1 曲静止映像。2003 作。Silverline)

### [VIDEO/U S A] 日本の VHS 方式でご覧になれます

- \*ALLMAN BROTHERS BAND: Live At Great Woods D  
(Gregg Allman, Dickey Betts ほかによる Allman の 91 年のライヴ。11 曲。90 分。92 作。Sony)
- \*STEVE EARLE&THE DUKES: Transcendental Blues Live D  
(全 17 曲。70 分。2000 作。E-Squad)
- \*TROUBADOURS OF FOLK MUSIC D  
(93 年 UCLA でのライヴ。Arlo Guthrie, Richie Havens, Beausoleil, John Prine, Janis Ian, Jefferson Starship, Janis Ian, Odetta。54 分。94 作。Rhino)

### [CD/U S A]

- \*ERIC ANDERSEN: Mingle With The Universe C  
(直前入荷。副題 "The Worlds Of Lord Byron" イギリスの詩人バイロン男爵ジョージ・ゴードン・バイロン [1788 年-1824] の詩に Eric Andersen が曲をつけてうたったもの。75 歳の年齢に相応しい晩秋の趣のある声で昔と変わらないアンダースン節。全体的に優しく穏やかな唄が多く、ずっと彼の唄の世界へと引き込まれる。一曲 ウードをフィーチャーしたアラブ風のインスト曲もある。w. Inge Andersen [奥様], Michele Gazich, Giorgio Curcetti, Cheryl

Prashker, Paul Zoontjens. 2017 作。独 Meyer)

\*GREGG ALLMAN: Southern Blood

B

(11/15 入荷予定。5 月 27 日に亡くなった Greg Allman の最後のアルバム。録音は Muscle Shoals。itunes で視聴して感動の嵐。1970 年代回帰というか、レイドバックしつつ、音は南部っぽく、またやや西海岸っぽく煮込み味、かつ Greg の唄は熱を帯びていて嘘みたいに聴き応えがある。Lowell George の "Willin'" や Bob Dylan の "Going, Going, Gone" や Jackson Browne の "Song for Adam" {Jackson Browne とのデュエット!} や Grateful Dead の "Black Muddy River" 等等など美味し過ぎる選曲。2017 作。Rounder)

\*DUKE ROBILLARD: Duke Robillard And His Dames of Rhythm C

(11/15 入荷予定。Roomful Of Blues の創設メンバーで元 Fabulous Thunderbirds のギタリストの新作は Maria Muldaur, Madeleine Peyroux, Catherine Russell, Kelley Hunt, Sunny Crownover, Elizabeth McGovern などの女性シンガーをヴォーカルに迎えたオールド・ジャズ・パーティー・アルバム。2017 作。M. C.)

\*JEFFREY MARTIN: One Go Around

A

(ポートランドの高校で米文学の教師をし、と同時に SSW としても活動しているという Jeffrey Martin の三枚目。第一印象は Bob Martin! Bob Carpenter! ジョン・スタインベックやアニー・プルーの小説を教材に使っているという彼のスタイルは 70 年代の反骨のフォークや放浪者のフォーク。唄の素材は旅先での経験や見聞きしたことや生徒から聞いたことなどだが、それらの唄は彼の唄の魔法にかかると約半世紀前の米国フォークの、それもコアな匂いを発する物語唄の世界に変わる。バックのエレキギター、ドラムス、スティール・ギター、ヴァイオリン、ベースなどによる腕立つ伴奏は最小限に抑えられていながら、味わい深く、言葉を噛みしめるようにうたう Jeffrey の唄の味わいは一層増している。本当に酔った、酔った。2017 作。Fluff And Gravy)

\*RUSTY YOUNG: Waitin' For The Sun

A

(Rusty Young のソロ? うそでしょ! 恐る恐る聴いたら、これまたうそでしょ! これは紛れもなく Poco サウンドで Rusty の声。Poco 自体が不滅の Poco サウンドを維持していることを思えば、この真っ向勝負な Poco 風 Rusty のソロが生まれても不思議ではない。しかも Poco の美味な部分を集中的に音楽化したような旨みあるカントリー・ロックは少し早いけど、最高のクリスマス・プレゼント。w. Jack Sundrud {Poco}, Michael Webb {Poco}, Rick Lonow (Flying Burrito)。ゲスト: Jim Messina, George Grantham, Richie Furay, Timothy B. Schmit. 同窓会的ムードを超えて、ばっちり Randy 流若草カントリー・ロックを体現していて涙涙。2017 作。Blue Élan)

\*JACK TEMPCHIN: Peaceful Easy Feeling

A

(副題 "The Songs of Jack Tempchin"。Eagles のヒットで有名な "Peaceful Easy Feeling" で始まる SSW の Jack Tempchin の本作は、多くはギターの弾き語りを中心にした {Rita Coolidge とのデュエットはピアノの伴奏} もので、彼の諸作の中で最も彼の唄をじっくり聴ける一枚。リラックスして Eagles 風に爽やかなタイトル

曲の他、Chris Hillman & Herb Pedersen をゲストに迎えた二曲  
["Already Gone"と"It's Your World Now"]やRita Coolidge や  
Janiva Magness とのデュエットなど自作の唄の数々をすごく自然  
体でうたっていて、心に響く。その一方で、後半に収録された三曲  
は、ガッツあるルーツロックで驚かせもする。ところで本作は46歳  
の若さで天国に逝った Glenn Frey に捧げられている。2017 作。  
Blue Élan)

\*A. J. GROCE:Just Like Medicine A  
(Dan Penn をプロデューサーに迎えて制作された Jim Croce の息子  
の A. J. Croce の本作は、マッスルショールズ産南部ロック〜ドク  
ター・ジョン風南部ロックの風合いのスワンプ。David Hood,  
Muscle Shoals Horns に Steve Cropper, Colin Linden, McCrary  
Sisters, Bryan Qwings, Vince Gill, Dan Penn 等で固めた 70 年代  
風のスワンプの音にまみれて、A. J. は幸せそうにノドをふるわ  
す。A. J. のヴォーカルは結構ソウルフルで味わいが深い。2017 作。  
Seeding)

\*OLD SALT UNION:Old Salt Union A  
(Old Salt Union は、2014 年の Freshgrass Band コンテストで優勝  
したという米国中西部を拠点に活動する五太郎のニューグラス  
〜カントリーロック・バンド。印象はコンテストの名称の「フレッ  
シュグラス」がぴったしの若々しさと初々しさと輝き感のある音  
楽。メンバーの内三名が SSW で、それぞれの持ち唄を土臭くって軽  
やかなサウンドと軽やかな唄とハーモニーで楽しませる。軽やか  
なカントリー・ロックのファンには絶好の唄と音楽というか、久  
々のホームラン・アルバム。不況地帯で生きる彼らは、だからこそ  
夢や愛を前向きに唄にしようとう。気分爽快作。2017 作。Compass)

\*NORTH MISSISSIPPI ALLSTARS:Prayer For Peace A  
(実質的に Luther&Cody Dickinson の二人組による南部ロック！  
たった二人でやってのけてしまう南部ロックの本醸造なこと！  
主要楽器はスライド・ギター&エレキギターとドラムス。たった  
これだけの楽器でディープな南部ロックを体現してしまうのだ  
から、恐れ入ってしまう。ヴォーカルを含め、「音」のすべてが全身  
全霊で父親譲りの南部ロックを志向していて、発せられる「音」す  
べてが圧巻！今の時代、真の南部ロックを体現出来る二人の存在  
は大きい。7人のシンガーやミュージシャンが1〜2曲でゲスト  
参加している。2017 作。Songs Of The South)

\*JAMES LUTHER DICKINSON FEATURING NORTH MISSISSIPPI  
ALLSTARS:I'm Just Dead, I'm Not Gone"Lazarus Edition"A  
(2009 年に 67 歳で亡くなった James Luther Dickinson が、2006 年 6  
月 2 日、息子二人 {Luther&Cody} が主要バンド・メンバーの南部ロ  
ック・バンドの North Mississippi Allstars を従えて行ったコ  
ンサート・ライブ音源からのスペシャル・エディション版。スワ  
ンプの名盤の誉れ高き彼のデビュー・アルバム"Dixie Fried"  
[1972 年]で出逢ってから、南部音楽一途だった James Luther と彼  
の音楽を受け継ぐ North Mississippi Allstars とによる、説明不  
必要な骨太で本醸造な南部ロック〜スワンプ。2006 年/2017 作。

Memphis International)

- \*THE SHOW PONIES:How It All Goes Down A  
(Show Ponies は Clayton Cheney {ヴォーカル、ベース} と Andi Carder {ヴォーカル、バズ} の男女のリード・ヴォーカルに Jason Harris {ヴォーカル、ギター}, Philip Glenn {ドラム}, Kevin Brown {ドラム} を加えた一姫四太郎の、ロスを拠点に活動するルーツロック・バンド。彼らのロックは二人のヴォーカルを含めて、ルーツ色が濃く、また 70 年代のカントリー・ロックのように音楽に活気がみなぎっていて、雑草のようにたくましい。デジタルの時代に対抗するかのような彼らの健やかなルーツロックは、心身を元気にしてくれる。2017 作。Freeman)
- \*JACK GRELL:Got Dressed Up To Be Let Down A  
(聴くなり馴染んで、すぐに和んでしまった、まるで 70 年代の緩くて人なつこい唄たち。ヴォーカルの感じは John Prine っぽい。Michael Hurley のような、とぼけた悠長さもあったり、Jesse Colin Young と彼の仲間達が立ち上げたラクーン・レコード一派の音楽のような 70 年代の西海岸田舎志向カントリー・ロック風のんびり感もあったりで、個人的に全くの「好み」。演奏は無名のミュージシャンばかりのカントリー・ロック・バンド編成で、演奏の緩さも魅力。心も体もニコニコ保証。2016 作。Big Muddy)
- \*TONY JOE WHITE:Deep Cuts B  
(南部男 Tony Joe の最深部から生まれた南部ロック。2008 作。Munich)
- \*DANIEL MARKHAM:Disintegrator a  
(Terry Allen や Flatlanders タイプとの紹介を見て、興味を持ったテキサスの若き SSW の Daniel Markham の新作。期待した兩大物の土臭さや泥臭さは薄い。それよりも R. E. M. タイプの西海岸志向のビター・スウィートなルーツロックを若者らしく、かっこよくガンガン聴かせていて、いやはや圧巻。Daniel 自身の唄も今が旬の夢の輝きを放っていて、一曲一曲がこだわりの重厚なルーツロック・サウンドと共に、聴き応えたっぷり。不思議と曲が印象的で、ふとしたときに頭の中で彼のうたが鳴っている。2016 作。簡易紙ジャケット)
- \*THE STATESBORO REVUE:Ramble On Privilege Creek B  
(Statesboro Revue は Stewart Mann の南部ロッカーの貫禄たっぷりなヴォーカルをフィーチャーしたルーツロック・バンド。彼らのロックは、70 年代の南部志向、特に Capricorn 産のアメリカン・ロックの匂いが充満。無骨というか、荒削りというか、骨太なロックを体現していて、しかも Stewart の入魂のヴォーカルと相まって、聴き応え十分。すべてが 70 年代のバンドがひょっこり現代に姿を現わしたかのような「音」だ。2013 作。Blue Rose)
- \*MUSTARD'S RETREAT:5 Miles Or 50,000 Years A  
(1970 年代から活動する二人組 {David Tamulevich & Michael Hough} の 1990 年のライブで発売は 1993 年作。本作は約半数が二人の心温まるオリジナル曲で、米国フォーク流のストーリーテリングな唄の世界を楽しませる。全 14 曲。1993 作。Mustard's Retreat

/発売年の古い CD ですので、検盤をしてお送りします)

- \*PROFESSOR LOUIE AND THE CROWMATIX:Wings On Fire a  
(The Band のロック・スピリットを受け継ぐウッドストックのロック・バンドの本作は Rick Danko と Levon Helm に捧げられたもので、そのスピリットは一段と高潔。彼らのロックは Levon Helm のスタイルを基本にニューオーリンズ色やロック色を濃くしたもので、そのエネルギーは熱い。ゲスト: John Platania, Michael Falzarano。2012 作。Woodstock)
- \*RICHARD DOBSON:Here In The Garden ¥1500  
(Townes Van Zandt や Guy Clark と共にテキサスのフォーク・シーンを引っ張ってきた Richard Dobson の六枚目。本作は Richard が 1999 年にドイツをツアーした時に組んだバンドのリーダーの Thomm Jutz をギターと共同プロデューサーで迎えて制作したアルバム。本作は、うたうこと、バンド仲間と音楽することを楽しむかのように、ゆったりとロックン・カントリーしていて、快適。2013 作。Brambus)
- \*MIKE LAUREANNO:Pushing Back Wintertime B  
(Mike Laureanno は、今は亡き Jack Hardy のハイパートのヴォーカル・ハーモニーのシンガーとして、かれこれ 12 年間、Jack Hardy と活動を共にしてきた SSW。Jack に較べ、Mike の声はやや高めなのだが、押し殺したようなかすれた声まで似ているのだから。Mike は Jack から唄の心を学んだようだ。2013 作。Mike Laureanno)
- \*KEITH SYKES:It's About Time (1993 作。Oh Boy) A
- \*TOM RUSH:Celebrates 50 Years Of Music D  
(CD+DVDセット。Tom Rush の音楽人生 50 周年記念のライヴ。録音は 2012 年 12 月 28 日。DVD を見た。ゲスト [David Bromberg, Jonathan Edwards, Buskin&Batteau, Dom Flemons] 全員集合のもと、Tom Rush の唄 "Hot Tonight" で幕開けした後、ゲストの唄が 7 曲。Tom の出番はその後、8 曲。ひょいっと 70 年代にタイムスリップ。映像で見る Tom は現役バリバリの印象。ホーナシにはインディエ、リハール風景そして David Bromberg の "Tongue" 他 4 曲がライヴで収録されている。CD は DVD 収録曲 16トラックから 13トラックを収録。2013 作。Appleseed)
- \*US RAILS:Heartbreak Superstar A  
(Tom Gillam, Ben Arnold, Scott Bricklin, Matt Muir, Joseph Parsons の誰もがヴォーカルを担う今日のアメリカン・ロック・シーンで、最も愛すべきバンドのひとつ、US Rail の新作。70 年代の主に西海岸のロック・バンドが保持していたアメリカン・ロックの土臭さや泥臭さを濃縮したロックは、昔どこかで聴いたことがあるようなヴォーカルやサウンドで、体にすこぶる美味しい。バンドの連中皆が、昔のロックに夢を馳せて、夢を追っかけてロックしているような素敵なロックだ。2013 作。Blue Rose)
- \*THE DIRTY GUV' NAHS  
:Somewhere Beneath These Southern Skies A  
(ナッシュビルのがツツあるルーツ・ロック・バンド。本作は 3 枚目。ナッシュビルと言えば、昔はカントリーのメッカだったが、彼らのロックは南部っぽくて結構気骨があって、真にタフなロックを体現する。リード・ヴォーカルの James Trimble の、アメリカン・ロック魂のあるソウルフルなヴォーカルは、骨太なバンド・サウンドと一体となって凄いインパクトがある。Levon Helm Band との共演、そして Levon Helm のスタジオでの録音経験もあるそう。ラストの "One Dance

Left”では、Levon Helm っぽいヴォーカルを振り絞ってもいる。2013 作。  
Blue Rose)

\*I SEE HAWKS IN L. A.:Mystery Drug A  
(ヘンなグループ名。総勢 8 名編成のこのバンドは、1999 年に LA で結成  
されたという。バンド編成はアルバムを出すごとに変わっていて、以  
前のアルバムには Chris Hillman も一員だったことも。唄も音楽も、  
まるで昔の西海岸の自然派カントリー系ロック達のように大らか。音楽  
を楽しむ空気が伝わってくる。2013 作。Blue Rose)

\*ANDREW CALHOUN:Living Room a  
(本作で聴く Andrew の唄は、唄に揺ぎがなく、大きな優しさのよう  
なものを感じられて、Andrew の SSW としての成長というか、円熟味  
が感じられるもの。自室でアコースティック・ギターを爪弾き、リ  
ラックスしてうたう Andrew の数々は、心穏やかにする。w. Casey  
Calhoun (Andrew の娘さん。素直な唄が気持ち良い)、Tracy Grammer  
, Jenna Rawling, etc. 2013 作。Waterbug)

\*AD VANDERVEEN:Driven By A Dream B  
(Iain Matthews とのデュオ“Iain Ad Venture”の Ad Vanderveen の本  
作はとところどころ Neil Young with Crazy Horse をもホツさせる  
思いつきリターン帰郷&若かりし夢回帰の見事なアメリカン・ルーツ・ロック。至  
福保証。2012 作。Blue Rose)

\*DAVID MUNYON:Pretty Blue C  
(D. Munyon の本作は、彼の人生を振り返る内容のアルバム。齢を重ねた  
David のしゃがれ声は益々味わいが深くなって、これまでの内省  
的ニュアンスのどのアルバムよりも心の底に響くものになっている。2011  
作。Stockfish)

\*MICHAEL JOHNSON:Moonlit Deja Vu a  
(ミソタのヴェテランSSW の M. Johnson の 12 年振りの本作は月を眺めながら  
ロマンチックな気分にはんわかと酔うような感じ。ギター名手でもある寡  
黙だが、星の輝きのある美しいギターを伴奏に、ほのぼとと一人、そ  
して娘の Truly や Maud Hixson 嬢とデュエットで、酔うようにうたう。  
2012 作。Red House)

\*MARK DVORAK:Time Ain't Got Nothin' On Me a  
(フォークギター、ブルースギターのギター演奏にも定評のある M. Dvorak だが、  
曲調により様々な表情を見せる鮮やかなギターの伴奏に乗ってうた  
われる彼の唄は体の芯から暖まる優しい眼差しの穏やかで優しい  
唄。ギターのメリハリがしっかりしているせいか、彼の穏やかな唄の穏や  
かさが引き立つ印象で、ふわふわと極楽な気分になる。ゲスト:  
Michael Smith. 2011 作。Waterbug)

\*LONG GONE “Utah Remembers Bruce “Utah” Phillips a  
(70 年～80 年代、Utah Phillips 作の唄をうたう SSW が本当に多かつ  
た。本作は Utah の唄に影響を受けたという SSW の Kate MacLeod が  
Utah の息子の Duncan の協力を得て制作した Utahソング集。Philo が  
存在していたら、Philo が真っ先に企画しそうなアルバムだ。トラックの  
語りと一曲グループの唄以外の 16 曲は全て Utah の唄を愛する SSW に  
よるギター等の弾き{奏き}語り。Kate MacLeod 以外は初耳の SSW ば  
かりなのだが、一曲一曲の「唄」が瑞々しく新鮮。2011 作。Waterbug)

- \*MAD BUFFALO:Red and Blue a  
 (カントリー・ロックは不滅を実感させるナッシュビルのSSWのRandy RiviereがヴォーカルのMad Buffalo。カントリー・ロックのスタイルだが、一つ一つの唄はRandyのSSWとしての持ち味が出ていて、むしろその各曲の個性がカントリー・ロック・スタイルの音作りをどこかカントリー・マンのロマンっぽい深みのあるものにしていて、Randyの唄の味わいも深まっている。w. Reggie Young, Chad Cromwel {Neil Young Band}, etc. Mad Buffalo)
- \*RANDY BURNS:The Simple Things a  
 (昔のままの瑞々しい2008年作。CD-R。自主制作盤)
- \*CARTER BROTHERS:The Road To Roosky a  
 (これは気合の入ったブルグラス系カントリー・ロック。カーター・ファミリーの家系のTim&Danny兄弟の本作はカントリー/ルーツ・ロックの深さが違う。骨太のカントリー・ロック。w. Sam Bush, Tim O'Brien, Ferrell Stowe。2011作。Compass)
- \*ERIC ANDERSEN:Blue Rain C  
 (E. Andersenの本作は闇の中で直向きでブルかつブルス色濃厚なルウエーでの2006年のライヴ。本作の彼は何かに取り憑かれたように凄い。2006作。ルウエー-Blue Mood)
- \*ERIC ANDERSEN:Ghosts Upon The Road A  
 (88作。カナダ Alert Music)
- \*BILLY C. FARLOW:You Better Run a  
 (元 Commander Cody&His Lost Planet AirmenのBillyの本作は重厚な南部ロック。w. Mary-Ann Brandon, Fred James, Jeff Davis, Mark Horn。2011作。トイSPV)
- \*GREG BROWN:Freak Flag A  
 (ブルス、カントリー、フォーク等アメリカン・ミュージックの要素混在で、G. Brown印の煮込み味SSWアルバムを創作し続けて彼だが、本作も同じ。この旨みある味わいは彼にしか出せない。w. Bo Ramsey, Mark Knopfler, Richard Bennett, David Mansfield, etc. 2011作。Yep Roc)
- \*GREG BROWN:Dream City B  
 (副題"Essential Recordings Vol. 2, 1997 - 2006"。1997 - 2006の間収録のRed HouseとTrailerの音源からの16曲と未発表音源からの4曲の二枚組。2009作。Red House)
- \*AZTEC TWO-STEP:Days Of Horses a  
 (初めて聴いた時、耳を疑った。Rex Fowler&Neal ShulmanのAztecの唄は彼らの72年のデビュー作と変わりなく、深緑の若葉のように清々しい。二人によるヴォーカル・ハーモニーの初々しさは彼らならではの。2004年のコピ-ライト。CD-R。Red Engine)
- \*RICHIE FURAY:I Am Sure a  
 (Poco/Richie Furayファンだったら"The Heartbeat Of Love"と同じくらい歓喜の声を上げること必至のコピ-ライトが2005年の最高にご機嫌なRichieのソロ。共演者はChris Hillman, Dan Dugmore, Jimmy Ibbotson, Bob Carpenter, Jeff Hanna, Michael Rhodes, etc. もうこれは出来すぎなくらいなRichieがリード・ヴォーカルのPoco風カントリー・ロック。全13曲。ItsAboutMusic.com)
- \*JAMES McMURTRY:Childish Things a  
 (昨今のRay Wylie Hubbardクラスの泥臭く、ずっしり重みのあるアメリカン・



ロックヴォーカルもサウンドも地鳴りがするほど鈍く唸りを立て凄みを放つ凄いロックだ。2005 作。Lightning Rod)

\*STEVE EARLE:Washington Square Serenade B  
(CD と DVD のセットの限定盤。DVD は国内プレイヤーで再生可。S. Earle の本作はまるでデライズ・フィルムの霧囲みの、初期 Dylan やそれを通り越してパラフィンフォーク的土臭さに到達したりもする文字通りアメリカンミュージックの根っ子回帰志向アルバム。DVD はニューヨークのスタジオライヴ 3 曲他で 37 分 24 秒。2007 作。New West)

\*PONDEROSA:Moonlight Revival A  
(南部アトランタから颯爽とデビューした 4 人組ロックバンドの Ponderosa は南部魂を持った、若いが、今どき珍しく骨のあるアメリカンロックバンドだ。南部系アメリカンロックバンドのヴォーカルとしては理想的な Kalen Nash {男性} のソウルフルなヴォーカルに粘っこいエレキギターと重厚なロックはもう抜群。2011 作。New West)

\*KIP BOARDMAN:The Long Weight a  
(音楽的には Harry Nilsson が近いだろうか。唄が自由に散歩でもするかのように軽やかで、豊かなイメージが広がる。ヴォーカルは Steve Forbert っぽい。Gia Ciambotti, Claire Holley, Kristin Mooney の女性バックিংヴォーカルを含め、バックバンドのサウンドがオールアメリカンミュージックのスケールで巧み、かつ自在で見事。2010 作。Ridisculous)

\*STORYHILL:Shade Of The Tree a  
(自主制作で 12 枚のアルバムを発表し、2007 年に Red House から "Storyhill" を発売し、多くの SSWファンを虜にした Chris Cunningham & John Hermanson のヴォーカルデュオ "Storyhill" の本作は、SSW の唄心というか良心が詰まった湧き水のごとき清き逸品。2010 作。Red House)

\*JIM POST:Reach Out Together A  
(白髪の爺さんになった Jim の声は軽やかで若々しい。Jim の飄々とした唄と Moby Grape の Jerry Miller の歯切れの良いギター、そして Randy Sabien のフィドルと Andy Steil のスライドギターやバンジョーはぴったり噛み合っていて、抜ける青空のような屈託のない Jim の唄は最高に輝いている。2009 作。Jim Post)

\*GEORGE ENSLE:Build A Bridge A  
(Townes Van Zandt が「George Ensle は最も影響力のある尊敬すべき SSW の一人」と賞賛するテキサスのヴェテラン SSW の George の唄はどことなく Jerry Jeff Walker の風合いなのだが、精神が自由というか飄々としていて、唄に爽やかさが感じられる。Bill Staines 的な風合いも。SSWファンの愛聴盤になること請け合い。2008 作。Berkalin)

\*MARK STUART:Songs From A Corner Stage(99 作。Gearle) A

\*BUTCH HANCOCK:War And Peace A  
(初期 Dylan を想起させる彼本来の粗い肌触りの引きずるような唄は流石。抜群の最近作。w. Joe Ely, Jimmie Dale Gilmore, Rob Gjarsoe。2006 作。Two Roads)

\*ERIC TAYLOR:The Kerrville Tapes a  
(Kerrville Folk Fes でのライヴからの全 10 曲。全曲ギターの弾き語りだが、鮮やかなアコースティックギターの伴奏とまるでスタジオ録音のような

唄うことに集中した Eric ならではの情景描写が見事な心痺れる叙情的な唄の数々。絶品。2003 作。Silverwolf)

\*THE NORMAN FISHINTACKLE CHOIR

:One Kind Of Bait In The Bucket A

(72 年作“Out The Window”と 73 年作“Shimmy She Roll, Shimmy She Shake”の Jim Pulte がヴォーカルのバンド。昨今のスワップ系アルバムでは最もスワップ色が濃い。ファン感動保証。2007 作。Windstorm)

\*DANNY FLOWERS:Tools For The Soul A

(本作はカントリー調、初期 Ry Cooder 調、南部ロック調そしてゴスペル調[結構 Leon Russell っぽい]等、どれも唄も音楽の魂に触れるもので、一曲一曲アメリカン・ルーツ色が濃厚で土臭くかつ泥臭い。w. Emmylou Harris, John Cowan, Steve Mackay, etc. 2007 作。Brash Music)

\*JIMMY HALL:Rendezvous With The Blues A

(Johnny Sandlin のプロデュースでアラバマ録音の Wet Willie の J. Hall の本作はディープ・サウスの本仕込みブルース。David Hood, Clayton Ivey, Johnny Sandlin, Jack Pearson, Bill Stewart 等による伴奏はブルース色が濃厚な南部ロック。3ボーナス・トラック付で計 14トラック。2006 作。Rockin' Camel)

\*TOM MAY:Blue Roads, Red Wine a

(かれこれ 35 年以上のキャリアのヴァンセンSSW の T. May の本作はうたう心優しい旅人そのままに旅先の思い出の唄や友愛の唄や夢や希望の唄などがそっと優しくうたわれている。Tom のヴォーカルはそっと包み込むように優しい。ヒット・トラックが 1 曲隠されている。ほほえみの一曲。2008 作。Waterbug)

\*DAVID MALLETT:Midnight On The Water a

(2005 年夏のライヴ。“Pennsylvania Sunrise”時代を思い起こさせる唄声に感激。2006 作。North Road)

\*A. J. ROACH:Revelation ¥1500

(ヴァージニアの山奥育ちで伝統音楽を聴き、若い頃古いアパールの聖歌をうたっていたという A. J. だが、彼の唄の芯の部分でカントリーやブルース等白人と黒人のルーツの音楽がミックスされた音楽性を保持し、伝統的聖歌やゴスペルの祈りから発した柔軟で逞しい意志のようなものが感じられる。Great!2007 作。Waterbug)

\*TINSLEY ELLIS:Moment Of Truth A

(南部ブルース・ロックの大御所登場。いやはや鳥肌立つブルース・ロックが次から次。エレキギターをかき鳴らし、大地揺らすブルース・ロックを叩き出す。全てが骨太で肉感的。w. Kevin McKendree, The Devil One, Jeff Burch, Mike Lowry, Michelle Malone. 2007 作。Alligator)

\*ALASTAIR MOOCK:Fortune Street a

(通好みのスルメ味 SSW アルバム。主に鮮やかなギターの伴奏でダミ声でうたう Alastair のざらっとした感触の唄は静かなインパクトがある。Chris Smither の“Train Home”のプロデューサーの David Goodrich のプロデュースは Alasdair の個性を際立たせていて見事。Chris Smither ファン是非。2007 作。ラング CoraZong)

\*RAMSAY MIDWOOD

:Popular Delusions&The Madness Of Cows a

- (J. J. Cale 風いぶし銀南部ロック。Produced by Don Heffington{トランスも}。w. Greg Leisz, Randy Weeks, Jake Labotz, David Jackson, etc. 2006 作。Farmwire)
- \*DAN HICKS&THE HOT LICKS:Featuring An All-star Cast Of Friends ¥2780  
(CD と DVD のセット。CD、DVD とも Dan Hicks の 60 歳誕生日お祝いコンサートのライブ。D. Hicks と縁のあるミュージシャンやシンガー総出演の素晴らしいライブ。DVD は PAL でコンサートの前のフィルムから笑わせる。至福保証。CD は全 13 曲で DVD は 2 曲多い 15 曲。2003 作。Surfdog)
- \*MICHAEL DE JONG:The Great Illusion C  
(フランス人 SSW{だが音楽は米国 SSW 系}の Michael {唄は英語}の本作は全曲ギターの弾き語り。一見 Bob Dylan の初期のようなシンプルな唄なのだが、心からの魂震わす唄は素晴らしい。SSW ファン必聴。2006 作。MW)
- \*MICHAEL DE JONG:Last Chance Romance C  
(人のロマンス等がとろけるように深く静かな空気の中で噛み締めるようにゆったりと唄われる。彼独特な独り言そして夢想の世界。2002 作。ランダ Munich)
- \*STEINAR ALBRIGTSEN&TOM PACHECO:Nobodies C  
(自主製作 CD-R。ウッドストックの Levon Helmスタジオで録音された 2000 年作。Tom も Steinar も激性を秘めた知的で叙事的で叙情的なガオーカが見事なもう一つの“Woodstock Winter”。w. Levon Helm, Rick Danko, Richard Bell, Scot Petito, Jim Weider, Happy Traum, John Sebastian, Jerry Marotta, etc. 2000 作。Tom Pacheco)
- \*TONY ARATA:Such Is Life A  
(CD-R。Tony はじっくり練り上げられた極上の唄を響きのいいアコースティックギターをお伴にゆったり噛み締めるように唄う。シンプルながら唄が深い。理想的 SSWアルバム。w. Dan Dugmore, Pat Alger, Lee Roy Parnell, etc. 2005 作。Little Tybee)
- \*TONY ARATA:Way Back When A  
(Tony の唄は嬉しくなるほど心優しく心が澄んだ唄、そして音も清々しくてスイートなカントリー・ロック調。丁寧な音作りを含め、一曲一曲に彼の温厚さと誠実さがきっちり込められていて、心のこもった手作りな作品として全てが温かい。70 年代の良質の SSWアルバムと同じ感触。2000 作。Little Tybee)
- \*DAVID MASSENGILL:The Return ¥1050  
(倉庫の隅で発見。95 作。Plump)
- \*RICHARD MEYER:The Good Life! ¥1050  
(倉庫の隅で発見。92 作。Shanachie)
- \*TOM OVANS:Tale From The Underground(Great!95 作。NSR) A
- \*ROD MacDONALD:A Tale Of Two Americas A  
(子の親になった Rod の「唄いたいこと山ほどあり」の思いがガングン伝わってくるフォーク・シンガーの原点回帰の見事なアメリカン・フォーク。2005 作。Wild River)
- \*MARK ERELLI:Hillbilly Pigrim A  
(M. Erelli の本作は古きカントリー・ミュージック回帰。Mark のカントリーは懐古趣

- 味を超えて、今の新しいアメリカの音楽としての勢いがある。音楽スタイルは古いが音楽新鮮野菜。ゲスト: Erin McKeown。2005 作。Signature)
- \*JEFF WILKINSON: Landscapes C  
(見聞きした不思議な光景や事件等をざっらとした感触の土臭いサウンドでどっぷり自分のペースで唄う。一曲一曲の自作の唄がタイトル通り Jeff の見聞きし、感じた「風景」のように唄として収まっている。全てが Jeff の時間の流れなのがいい。Brambus)
- \*BART DAVENPORT: Maroon Cocoon a  
(子供の頃、ヒットだった両親のレコード・コレクションを聴き漁ったという彼だが、音楽性は 70 年代の夢想的なブリッシュ・フォークあるいはソフトラックの感触で輝くギターを爪弾き、夢見心地な唄をゆったり描くように唄う。2005 作。Antenna Farm)
- \*RAY WYLIE HUBBARD: Last Train Of Thought (95 作。Deja) A
- \*DAVID BALL: Freewheeler A  
(タイトル曲は Jesse Winchester のカバーだが、このカントリー系 SSW の D. Ball の本作はヴォーカルといいサウンドといいカントリー度が深い。ヴォーカルもサウンドも泥臭くエッジアップ。w. Mike Johnson, Kenny Malone, Milton Sledge, Dan Frizsell, etc. 2004 作。Acan)
- \*FRED KOLLER: No Song Left To Sell A  
(どっしりとした SSW アルバムの傑作。Shel Silverstein との共作集で全 14 曲。2001 作。Gadfly)
- \*ERIC TAYLOR: The Kerrville Tapes A  
(Kerrville Folk Festival のライブ。2003 作。Silverwolf)
- \*J. T. VAN ZANDT: WRECKS BELL B  
: Live At The Old Quarter Acoustic Cafe  
(マックス・ヴァン・ザントの息子 J. T. が 8 曲と Wrecks Bell が 9 曲の全 17 曲入ライブ。2004 作。Romeo)
- \*THE WOODYYS: Teardrops&Diamonds A  
(Byrds~Every Brothers~Gram Parsons 的全アメリカン・ミュージック・ファンの琴線に触れる懐古&郷愁ムードとロックする快樂さと恋する思い等がチャラルに表出したほんわか気持ちのいいカントリー・ロック。w. Al Perkins, Dave Pomeroy, Gam King, Tammy Rogers, Steve Conn, Billy Block, etc. 2001 作。Dynamike)
- \*CELEBRATION! "Highlights From The 40th Philadelphia Folk Festival" A  
(2001 年 8 月 24~26 日に開かれたフェスのライブ。全 13 曲。出演者は収録順に Arlo Guthrie, Laura Love Band, Sonia Solas, David Bromberg, Janis Ian, Richie Havens [All Along The Watchtower], Tom Paxton&Anne Hills, Chris Smither, Jimmy Johnson, Laurie Lewis, Tom Rush [Driving Wheel!], Judy Collins。2002 作。Sliced Bread)
- \*RECKLESS JOHNNY WALES: It's Not About The Money A  
(ユーモア、皮肉、悲哀など人生のひきこもごもをペースで唄う唄でうたう凄く个性的で魅力的な SSW。Randy Newman に似てるが、Recklessの方が音楽的に開放感があって豊か。w. Jeff "Skunk" Baxter, Clive Gregson, Dave Pomeroy, Brian Willoughby, Cathryn Craig, Pat

- McInerney, Michael Snow, etc. 2003 作。Villa Villa Music)
- \*SAYLOR WHITE:Graven Image B  
 (風貌は Willie Nelson 風。ヴォーカルは Jerry Jeff 風。どことなく時代遅れなおっとりした唄と土臭いサウンドはほのぼのとさせ、またしみじみといい気分させる。ひと言ひと言思い出に浸り、2003 作。Last Call)
- \*BILLY JOE SHAVER:Freedom Child A  
 (オルト・タイム・フィーリングな Billy Joe の本作は自身のルーツ回帰の懐古趣味的な一方で、古いカントリーやブルース調の節での Billy のヴォーカルは古臭くも輝いている。2003 作。Compadre)
- \*DAVE SCHRAMN:Hammer And Nail ¥1980  
 (内省的 SSW アルバムの傑作。99 作。トイ Blue Rose)
- \*SHAWN SAHM:Shawn Sahn A  
 (Doug Sahn の息子 Shawn の Doug Sahn そっくり? なソニリの本作。すっかりサー・ダグラス・クインテット風なテックス・メクスとハスキーで甘い Shawn のヴォーカルは理想のテキサス音楽を体現。ゲスト: Doug Sahn, Augie Meyers, Flaco Jimenez。2002 作。イヴリス Evangeline)
- \*PONTY BONE:Fantasize A  
 (テキサスのドクター・ジョンとも言うか、縦揺れ、横揺れたつぶりリスミカル。Ponty のおおらかな太いヴォーカルもいい、いい。ようこそ! ミラクルな Ponty Bone のテックス・メクス・ショーの世界へ。2002 作。Loudhouse)
- \*DON WILLIAMS:Silver Turns To Gold A  
 (いわば心の名曲集。SSW ファン向けのいい唄ばかり。終始心和む。w. Sam Bush, Kenny Malone, Tim Williams, Charles Cochran, etc. 2002 作。RMG)
- \*DON MICHAEL SAMPSON:Old Wood Bridge A  
 (2 枚組 CD-R。あの“Americansongs”の Don の悠々自適の自主制作盤。各種愛用ギターのアタックの強い巧みなギターを伴奏にした Don の唄は彼のキャリアがしっかりと熟成されたしたたかでしなやかなもの。2001 作。Red Rose)
- \*JEFF TARLTON:Astral Years a  
 (米国人 SSW だが資質は英国人 SSW 的。90 年代初めに故郷を離れ、録音時はベルリンでストリート・ミュージシャン。マンコリックで宇宙的音楽は Nick Drake や Tim Buckley を思い出させる。全 20 曲の長い旅。97 作。Delerium)
- \*JEFF TARLTON:Dragin Spring a  
 (前作の延長線上の 2 枚目。少し型にはまった分音楽的。やはり夢の異次元の世界へ。ベルリンでの録音。2000 作。Delerium)
- \*TONY JOE WHITE:One Hot July A  
 (スワップな煮込み味。T. J. White ここに在り! 2000 作。Hip-0)
- \*ALAN GERBER:The Boogie Man(1999 作。Mugwamp) a
- \*CALVIN RUSSELL:Crossroad B  
 (ギター弾き語りライブ。ごっつい唄が全 16 曲。“想い”が乗り移った粗いギターと“想い”がこぼれんばかりの入魂の唄に釘づけ。2000 作。Last Call)
- \*CALVIN RUSSELL:Sam B  
 (テキサスのヴォエラン SSW の 8 枚目。プロデューサーが James Luther Dickinson

で、バックには Roger Hawkins, David Hood, Brenda Patterson の面々。ロングセラー。99 作。Last Call)

- \*TOM ROZNOWSKI:Voice Beyond The Hill A  
(T. Roznowski の温厚な人柄が滲み出た心優しい SSWアルバム。70 年代っぽい味と心あるカントリー・ロックが Tom の持ち味を最高に高めている。w. Jon Randall, Rob Ickles, James Talley, Brent Truit, Richard McLaurin, etc. おやじ感涙保証。2001 作。Blazing Stump)
- \*HUNTER MOORE:Conversations B  
(ナッシュヴィルの SSW, H. Moore の本作は Chris Donohue [ベース], Phil Madeira [エレキギター], Steve Hindalong [ハーモニカ] の小編成ながらソリッドかつタイトなルーツ・ロック。Hunter の乾いた粗野なヴォーカルか何とも言えず魅力。2001 作。Brambus)
- \*HUNTER MOORE:Delta Moon B  
(その昔のベストセラー。やや南部寄りかつ繊細さも持ち合わせた本作は今聴いても新鮮。SSW 名盤。w. Kenny Malone, Bob Wray, Russ Pahl, etc. 96 作。Brambus)
- \*JERRY JEFF WALKER:Mr. Bojungles C  
(2 曲のボーナス・トラック付の計 12 曲入。68/93 作。Rhino)
- \*TAJ MAHAL&THE HULA BLUES BAND:Hanapepe Dream B  
(西アフリカのお次はハワイ! Taj の渋いヴォーカルもバンドの音楽もユルユルで心地よいロール感があって、ご機嫌。Taj の各種ギターはもちろんのことウクレレやスティール・ギターも最高の響き。夢心地保証。2001 作。ドット&M)
- \*MAIN STAGE LIVE "Falcon Ridge Folk Festival" A  
(Kennedys, Dar Williams, Greg Brown, Richard Shindell, Nields, Patty Larkin, Peter Mulvey, Vance Gilbert and more。全 14 曲。99 作。Signature)
- \*TOM MITCHELL:When The Moon Is Right ¥1000  
(時折、Bob Carpenter をホフツさせる世界をも垣間見せる。SSWファン静かなる衝撃作。96 作。Truesongs)
- \*ELLIOTT MURPHY・IAIN MATTHEWS:La Terre Commune A  
(異色のデュオ。それぞれのソロの持ち味とデュエットがバランスよく収められた友情盤。2001 作。ドット&M Blue Rose)
- \*CHRIS SMITHER:Live As I'll Ever Be B  
(何も言うことなし、C. Smither の持ち味そのままが発揮されたギター弾き語りライブ。録音は 96—99 年。全 16 曲。Hightone)
- \*DAVID MUNYON:Acrylic Teepees B  
(いつも夢想的で透明な D. Munyon の唄の世界。w. Al Perkins, Dave Pomeroy, Craig Krampf. 珠玉の逸品。96 作。Glitterhouse)
- \*DAVID MUNYON:Slim Possibility B  
(ある種神聖とも形容できる D. Munyon 独特な唄の世界だ。非の打ち所のない潔癖さだ。理想の SSWアルバム。96 作。Stockfish)
- \*JEB LOY NICHOLS:Just What Time It Is a  
(ベース・ギタール録音の傑作"Love's Knot"に次ぐ待望の New。しばし南部&トロピカル・フィーリングのある本作に夢心地…。知性と感性と職人ワザと三拍子揃った傑作。2000 作。Rough Trade)
- \*JERRY JEFF WALKER:Night After Night D

\*BUTCH HANCOCK・JIMMIE DALE GILMORE:Two Roads a

\*MARK STUART:Songs From A Corner Stage(1999 作。Gearle) a

[CD/U S A {female}]

\*JOAN SHELLEY:Joan Shelley A

(本作が四枚目という女性 SSW の Joan Shelley の新作。彼女のアルバムを聴くのは初めて。静寂感が漂うなか、ひっそりとして陰りのある唄の何と魅力的なこと！そんな Joan の唄も Nathan Salsburg のギターを要にしたアコースティックなサウンドも、引く唄の魅力というか、闇の中でかすかに光のような夢幻な響きがあって、そっと彼女の唄の世界へと引き寄せられる気分なのだ。米国の SSW アルバムだが、70 年代のブリティッシュ・フォークのような、それもあり味なブリティッシュ・フォークを味わう気分・・・アイリッシュだが、Gay & Terry Woods の Gay Woods の陰りのある唄が頭に浮かんだ。2017 作。No Quarter)

\*LAURA CORTESE & THE DANCE CARDS:California Calling A

(パークリー音楽大学卒業生で大学を拠点に活動しているという SSW でフィドル奏者の Laura Cortese と彼女のグループによる本作は、異色のルーツ・ミュージック・バンドとして注目を集めているという。本作から発つ彼女の資質は彼女が生まれ育った夢見る？サンフランシスコ～カリフォルニアの香り。フィドル、バンジョーなどが米国ルーツ志向の土臭いサウンドをベースに、甘くも尖ったサウンドとコーラスを付けて、ほんわか夢見心地なカリフォルニアン・ルーツロックを創作している。一見とらえどころのないような音楽だが、芯はアメリカン・ルーツで、生まれた音楽は彼女の個性が散りばめられたハッピー・サウンド・ミュージック。故郷カリフォルニアへの想いが強い分音楽がほんわか。2017 作。Compass)

\*CAROLIN NO:You & I B

(Carolin No は Carolin & Andreas Obieglo のドイツの男女二人組だが、ほとんどが英語の自作曲で米国 SSW タイプなのでここで。アコースティック・ギターやグロックンシュピールなどの繊細極まりない産毛のようなサウンドの中、リード・ヴォーカルの Carolin の耳元でささやくような、ふわふわ風に揺れるような唄は、光 [朝日？夕日？] まぶしいジャケット写真のようにふわふわ気分で夢見心地。相方の James Taylor のような声の Andreas は同じ空気感の中で、優しくハモる。一曲目 {タイトル曲} から絶品。途中ドイツ語の唄になっても、ずっと馴染んでしまう。2017 作。Fuego)

\*ANNA TIVEL:Small Believer A

(愛すべき不思議女性 SSW の Anna Tivel の新作。Anna の唄はいつもふわっと懐かしい気分になる。彼女の目を通すと、何でも夢物語になる。過去の出来事をうたっても、周りにある物や周囲の普通のことをうたっても夢うつつな Anna 色に変わる。Anna の普通ではない唄の魅力を知るプロデューサーの Austin Nevins {Josh Ritter, Anais Mitchell} による、音を色と見立て、音を選び、その音で絵を描くように彩った音作りは職人技で、Anna の夢色の唄と

共にサウンドも魅力的。ある種感覚派のルーツロック。しばし時の流れが止まる。w. Jeffrey Martin {ヴァーカル}, Austin Nevins {エレキギター、アコースティックギター、パンプ・オルガン、ラップ・スティール。バンジョー、グロックンステール}, Sam Howard {ベース}, Chris Johnedis {トラムス}, Rob Burger {キーボード}。2017 作。Fluff And Gravy)

\*THE LASSES & KATHRYN CLARE: Live at De Parel van Zuilen C  
(オランダの女性フォーク・デュオ“Lasses”の待望の新作は、米国の女性 SSW の Kathryn Clare {ヴァーカル、フィドル、ギター} を加えたトリオでの 2016 年のライブ。Lasses の Margot {ヴァーカル、ギター他} & Sophie {ヴァーカル、ギター他} と Kathryn の出逢いは 2013 年、アムステルダムにあるアイリッシュ・パブで、以来、交友を深めたという。三人の自作曲を中心に米国トラッドや英国のフォーク・シンガーの Cyril Tawney の曲等を収めた本作は、女性的に優艶でありかつ滋味豊か。実際、ブックレットに見られるロウソクのような照明のみが点いた会場で、三人心を一にし、静かに心をこめてうたっているかのような素朴さの中に、心通う充実感のようなものが確かにあって、体の芯から穏やかな気分になる。協同で良き唄をうたう三人の歌姫の絆は強い。聴くほどに心和む。2017 作。The Lasses)

\*SHANNON McNALLY: Black Irish A  
(“Black Irish”というタイトルだが、音楽はアイリッシュとは無縁のやや南部志向の女性 SSW タイプの音楽。70 年代の米国 SSW & ロックを体験してきた連中が「夢をもう一度」との思いで、集中力を上げてバックアップしたのが本作。シンガー Shannon の音楽的資質に最も近いのは Bonnie Raitt。そんな米国南部 & ルーツ志向の生え抜きのシンガー Shannon の唄とその資質に見合った旨みたっぷりの土臭い音楽は、この手では最上級。w. Rodney Crowell {プロデューサーでもある}, Colin Linden, Emmylou Harris, Elizabeth Cooke, Byron House, Jim Hoke, Michael Rhodes, etc. 2017 作。Compass)

\*BANKESTERS: Nightbird A  
(Alysha {マンドリン、フィドル}, Emily {フィドル、バンジョー}, Melissa {ベース} の三姉妹シンガーのソロとハーモニーをフィーチャーし、父の Phil {ギター} と Melissa のご主人の Kyle {バンジョー、ギター} が三姉妹の魅惑の唄の縁の下の力持ち役で共演した Bankester ファミリーの 6 枚目。2017 作。Compass)

\*LAURA CANTRELL: Kitty Wells Dresses B  
(Laura の 4 枚目に当たる本作は、Laura が子供の頃からのファンというカントリー・シンガーの Kitty Wells のカバー集。スティール・ギターを含めたカントリー・サウンドの全てがハイ音楽のような清涼感があって、清々しい。2011 作。Shoeshine)

\*BETSE ELLISE: High Moon Order A  
(The Wilders のヴァーカル、フィドルの Betse の 13 曲中 7 曲が自作曲で 3 曲が伝統曲。彼女のフィドル演奏はザーク・スタイルのオール・タイム・フィドルだそうで、僕の耳には John Hartford の女性版のように聞こえる。今の世の中にこんな音楽あり?! と思ってしまうほど、ホームメイドな古臭くて、飄々とした唄と音楽だ。2013 作。Tree Dirt)



- \*ALICE GERRARD:Bittersweet A  
 (かれこれ 40 年以上にわたって、アメリカ・ルーツ音楽の第一線で活動して  
 きた Alice の 10 年ぶりの本作は、全曲自作曲の深い味わいのある素  
 晴らしい SSW/フォーク・アルバム。体の中から湧き上がるようなリラックスした  
 唄は、いぶし銀のアメリカ・ルーツ・サウンドを伴って、ある時は心に沁み、ま  
 たある時は心を和らげ、またある時は心をほがらかにさせる。いぶ  
 し銀のアメリカ・ルーツ音楽の名品だ。w. Laurie Lewis, Stuart Duncan,  
 Bob Ickes, Bryan Sutton, Todd Phillips, Tom Rozum, etc.  
 2013 作。Sprouce And Maple Music)
- \*CATHRYN CRAIG & BRIAN WILLOUGHBY:Real World a  
 (ナッシュビルの女性 SSW の C. Craig とブリティッシュ・フォーク・グループのストロークスの  
 ギター奏者の Brian Willoughby のデュオによる本作は、Brian の美しい  
 ブリティッシュ・フォーク・ギターと Cathryn の大人のメルヘン調の穏やかな唄とが  
 何とも心地よい“Real World”ではなく、“Dreamy World”。ずっと聴  
 いていたい気分。2013 作。Cabritunes)
- \*ANNIE KEATING:Water Tower View a  
 (ひと味違う凝ったルーツ・ロックは本醸造ルーツ・ロック・ファンを唸らせる。こん  
 なにセンスのいいかしたルーツ・ロックは滅多にお耳にかかれない。Annie  
 の唄は、センス抜群の大人のルーツ・ロック・サウンドと共に心と体に美味しい。  
 w. Bo Ramsey, Jason Mercer, Chris Benelli, Chris Tarrow, John  
 Caban, etc. 2010 作。  
 Annie Keating)
- \*COSY SHERIDAN:The Horse King a  
 (ヴァン女性 SSW の Cosy の本作はひと味違う。様々なサウンドを創り出  
 すアコースティック・ギターの妙技に驚かせられながら、Cosy の唄の世界へ  
 とご機嫌に誘われてゆく。音楽性の基本は Good & Old Time なアメリ  
 カン・ミュージック。巧みなワザに裏打ちされた音楽は豊かで柔らか。心晴  
 れ晴れする爽快な SSW アルバムだ。w. David Surette, Kent Allyn,  
 Penny Nichols, TR Ritchie. 2011 作。Waterbug)
- \*CAROLINE HERRING:Camilla A  
 (Caroline の音楽性はフォーク/ルーツ・ロック系だが、その中身は自分の物語  
 を含めて、アメリカの物語。Lucinda Williams 級。ゲスト:Jackie Oates,  
 Mary Chapin Carpenter, Aoife O'Donovan, Kathryn Roberts。最後  
 の曲はロバート・パーンズの「蛍の光」だが、Caroline は自作のモデルに乗  
 せてうたっている。2012 作。Signature Sound)
- \*JANIVA MAGNESS:Stronger For It A  
 (Janiva の渾身の唄とバンドの南部ロックが、ガツと組み合って、感動の  
 嵐。2012 作。Alligator)
- \*FRED JAMES & MARY-ANN BRANDON:We Belong Together a  
 (ナッシュビルのヴァン女性 SSW & ギタリストの Fred James とナッシュビルのスワンプ・ク  
 ーンの Mary-Ann の共演盤。Fred の SSW 的資質と Mary-Ann の南部ブル  
 ス&R&B 資質のぶつかり合いは Fred が Mary-Ann の大きな土俵の上で、  
 自身のエレキ・ギターを含め、ガツあるヴァンで精一杯対抗する風なが  
 ら、Fred は +α の南部っぽい底力を見せ付けている。Mary-Ann のヴァ  
 ン・ヴォーカルは豊潤なヴァンで聴き手を圧倒する。2011 作。ドゥイ SPV)
- \*WHEN OCTOBER GOES (1991 作。Philo) A

- \*NANCI GRIFFITH:Little Love Affairs(1988 作。MCA) A
- \*NANCI GRIFFITH:Flyer(1994 作。Elektra) A
- \*REBECCA PRONSKY:Viewfinder A  
 (ブルックリンの女性 SSW の Rebecca の唄は独特。音楽的には Gillian Welch や Eilen Jewell のような古いルーツ・フォークやルーツ・ロック的な志向性を持ちつつ、トゥーンギンギング・ギターの多用に加え、声が豊かで、夢想的で朗々としたヴォーカルなど、彼女独特な唄世界を創作している。都会のビルの一室で、夢想しているかのような音楽。2011 作。Nine Mile)
- \*LIZ MEYER:The Storm A  
 (カントリー・フォークの女王 Liz の本作は昔からの音楽仲間や中堅音楽家の協力を得て実現した夢に描いてきた同窓会音楽。Bela Fleck, Emmylou Harris, Jerry Douglas, Sam Bush, Stuart Duncan, Rob Ickes, Byron House, Glen Duncan, Ron Block, Kenny Malone 他。2005 作。オランダ Strictly Country)
- \*CARRIE RODRIGUEZ:She Ain't Me A  
 (Chip Taylor とデュオを組んでいた Carrie の二枚目。本作でデュエットする Lucinda Williams 級。2009 作。Continental Song City)
- \*KRISTA DETOR:Chocolate Paper Suites a  
 (前二作同様、プロデュースは David Weber で、そしてまた前作同様、自身が奏でるピアノの響きが印象的で、時空を超えて、Krista が創作する穏やかで、深く心地よい唄の世界へと運ぶ。Chris Wood, Karine Polwart, Emily Smith, Maura Smiley, Rachel McShane, Malcolm Dalglish, etc. 2010 作。CoraZong)
- \*RACHEL HARRINGTON:The Bootlegge's Daughter A  
 (2008 年作の"City Of Refuge"が好評の Rachel の 2007 年作のデビュー作。Rachel の唄を包む空気は百年前のアメリカ西部、或いはアラバマだったり、今日のルーツ・ロック風だったり、また今日の田舎の SSW 風だったりする。2007 作。Skinnydennis)
- \*LINDA HARGROVE:One Woman's Life A  
 (カントリー・フォーク系のヴァンサンSSW の Linda の本作はヴォーカルも音作りもヴァンサンスタイルの風格漂う Great な SSWアルバム。名うての楽士達のバックアップが見事。Linda の揺るぎ無い唄に相応しい演奏で支える楽士は Sam Bush, Kenny Malone, Jeff Davis, Dennis Burnside, Pam Rose, Hoot Hester, etc. 2005 作。Panacea Productions)
- \*KATE McDONNELL:Where The Mangoes Are B  
 (Kate の本作が 4 枚目。Kate ならではの壊れそうで逞しい唄たちだ。Kate は今を唄う吟遊詩人。2005 作。Appleseed)
- \*SUZANNA SPRING:She's Got Your Heart A  
 (本作は敏腕プレイヤーによる奥深くもピリっとかっこいいルーツ・ロックの見事さ中で女性ならではの哀愁や感傷や夢想等の感情が実にいい感じで美味な唄として結実している。かっこいい音の波に乗ってる、って感じだ。2003 作。Suzanna Spring)
- \*CLARE MULDAUR:Bentley Circle ¥700  
 (Geoff&Maria の娘 Clare の 2 枚目。Clare の夢見るような素朴な唄の数々とこれまた夢見るような素朴なギター、フィランゴ、アコーディオン等の伴奏の音色の心地よさは憎いほどの素敵さ。2003 作。Clare Muldaur)

- \*WENDY BECKERMAN: Mango Moon A  
 (Jack Hardy おかかえのミュージシャンがバックを固めた Wendy の3枚目の96年作。Wendyの持ち味がシンプルにリカルに表出。唄の自由さと彩りのある素敵な女性 SSWアルバム。Brambus)
- \*FLORAMAY HOLLIDAY: Floramay Holliday B  
 (南カリフォルニアの女性 SSW。Kelly Willis と比較されることの多い SSWだが、Floramayの方がロッキングで南部志向。エネルギーを内にキープした本格的なフォークをテキサスのヴェテラン達が本醸造ロックでサポート。w. Lloyd Maines, John Inmon, Gene Elders, etc. 98作。Roseneath Music)
- \*ROSALIE SORRELS: No Closing Chord a  
 (Malvina Reynoldsソング集。w. Bonnie Raitt, Laurie Lewis, Nina Gerber, Barbara Higbie, etc. 2000作。Red House)
- \*PEGGY SEEGER: Love Will... Linger On... a  
 (副題“Romantic Love Songs”。子守唄のように夢心地な唄達。w. Colum&Nei MacColl, Irene Scott, etc. 2000作。Appleseed)
- \*KIM RICHEY: Bitter Sweet (97作。Mercury) A
- \*MARIA MULDAUR: Meet Me At Midnite (1994作。Black Top) A

### [DVD/CANADA] PAL 2

※PAL 専用 DVDプレーヤー/パソコンで再生可能

- \*NEIL YOUNG: Heart Of Gold D  
 (2枚組。ディスク1はドキュメンタリー+ライブ1曲で、ディスク2は2005年ナッシュビルでのライブ。全19曲。w. Emmylou Harris, Ben Keith, Spooner Oldham, Karl Himmel, Chad Cromwell, etc. ディスク2のライブは一曲一曲が聴き所、見所。2005年。オランダ。Shangri-la)

### [DVD/CANADA] NTSC all regions

※国内製 DVDプレーヤーで再生可能

- \*LEONARD COHEN: Under Review 1978 - 2006 B  
 (カナダを代表する SSW の L. Cohen の多数の希少ライブ映像を含む貴重映像と写真を挟みながら John Simon, John Lissauer, David Cohen 等 L. Cohen のプロデューサーやジャーナリストがアルバムを追いながら彼の音楽を語るドキュメンタリー-DVD。64分。2008作。Sexy International)
- \*RONNIE HAWKINS: Still Alive And Kickin' B  
 (The Bandの前身 The Hawks のリーダーでカナダのロック界のホースの Ronnie Hawkins の Hawks 時代の貴重ライブ映像や今日のバンドのライブを挟みながら、癌の手術そして快復等 R. Hawkins の普段着の姿と音楽人生が記録された DVD。Robbie Robertson, Kris Kristofferson, クリントン元大統領が R. Hawkins を語る。約90分。2004作。CTV)

### [CD/CANADA]

- \*BRUCE COCKBURN: Bone On Bone B  
 (72歳になった Bruce Cockburn の6年振りの、どこからこれほどのエネルギーが湧き上がってくるのか、驚きの新作だ。そのエネルギーの源のうたわずにはいられない B. Cockburn の熱い思いと、その思いをしっかりと受け止めて音を組み立てるプロデューサー

の Colin Linden の豊かな力量に心底驚かされる。Colin Linden は B. Cockburn の類い稀な才能と向き合うことで、彼本来の南部志向の上に、かかんに未踏の音楽を創作している風で、熱く粗めの B. Cockburn の唄とがっぷり四つになったフォーク～ロックは、正に圧巻。B. Cockburn は不滅。w. John Dymond, Gary Craig, Mary Gauthier, Ruby Amanfu, Brandon Robert Young, Roberto Occhipinti, Julie Wolf, John Aaron Cockburn {Cockburn の甥} 他。2017 作。True North)

\*FRED EAGLESMITH: Standard A  
(愛すべきカナダのヴェテラン SSW の Fred Eaglesmith の愛すべき新作。バンド編成だが、Fred の心はギターを弾き語りしていた時代に初心回帰するように、一心に声をふり絞る。それらの唄は、Roger McGuinn や Willie P. Bennett や Chip Taylor などの唄とイメージが重なる。デジタル音とは無縁な粗いルーツロック・サウンドが、彼の不器用に古いスタイルのままの泥臭くルーズなヴォーカルにバッチリ合っていて、ひとつひとつの唄が心にぐさり。「泥臭くルーズ」だが、唄に一匹老狼 SSW としての魂が宿っている。2016 録音の 2017 作。Fred Eaglesmith)

\*BLUE RODEO: 1000 Arms B  
(1984 年結成のカナダのヴェテラン・カントリー・ロック・バンドの Blue Rodeo の新作は、西海岸カントリー・ロックの王道を突き進む信じられないほど爽快なカントリー・ロック。現在のメンバーは Greg Keelor {ヴォーカル、ギター}、Jim Cuddy {ヴォーカル、ギター}、Bazil {ベース} のオリジナル・メンバーに Glenn Milchem {ドラムス}、Michael Boguski {キーボード}、Colin Cripps {ギター、ヴォーカル} の六太郎。Poco と Byrds の美味しいところを清々しく受け継いでいて、感涙。彼ら、音楽で青春してますね。2016 作。TeleSoul)

\*BLACKIE AND THE RODEO KINGS: South A  
(Stephen Fearing, Colin Linden, Tom Wilson, John Dymond, Gary Craig の Blackie&The Rodeo の 2014 年のアルバム。フォーク系の S. Fearing, カントリー&南部系の T. Wilson, 南部系の C. Linden のそれぞれの SSW がこのバンドのために自作曲を持ち寄って、それぞれの個性を活かした年季の入ったルーツロックを創作しているのだが、特に Willie P の資質に似た持ち味の T. Wilson と南部志向の C. Linden の二人がリード・ヴォーカルを担う曲の土臭さや泥臭さは、Willie P+α の味わいを醸し出していて、圧巻。2014 作。FU:M)

\*BLACKIE&THE RODEO KING: High Or Hurtin' B  
(Stephen Fearing, Colin Linden, Tom Wilson から成る“Blackie”の 1996 作。True North)

\*BROOKE MILLER: Familiar D  
(Super Audio CD。プリンスエドワード島育ちの女性 SSW でギタリストの Brooke Miller は、Bruce Cockburn の緻密さと Joni Mitchell の繊細さを併せ持つカナディアン SSW らしいアーティスト。カナダのかたがの SSW アルバムとして完璧。ギター・ファンも唸るよ。2012 作。Stockfish)

- \*STEPHEN FEARING:That's How I Walk B  
 (最強のSSW、S. FearingのNewは、朋友Colin Lindenの強力応援を得、Stephenの感性鋭いシャープな唄が、より深みと味わいをもって心に突き刺さる。w. Colin Linden, Richard Bell, Shawn Colvin, Jonelle Mosser, Ben Riley, etc. 2002作。True North)
- \*RICHARD NEVILLE:Old Souls A  
 (Richard Nevilleはカナダ東部のラブラドル半島のSSW。ラブラドル半島の人々や文化に触発された自作の唄の数々は、ほっこりしていて、古くからの友の唄を聴くように体にしみわたる。例えば、田舎暮らしをしていて、穏やかになったGordon Lightfootのようなメロディの唄。自身のギター弾き語り+軽やかなカントリー・ロック風サウンドは、彼の温厚な唄とともに何とも心地よい。SingSong)
- \*BONNIE DOBSON:Take Me For A Walk In The Morning Dew A  
 (Bonnie Dobsonの2014作。録音は英国のロンドン。Her Boysと名付けたグループ{B. J. Coleもメンバー}を伴って制作された本作は、衰えを知らぬ歌声と決して懐古趣味的ではないソリッドなアコースティック・フォーク〜フォーク・ロックに現在進行形の今のBonnieの音楽が瑞々しく表出されている。12曲目の“Sandy Boys”などはFairportみたいな気力充実のフォーク・ロック。2014作。Hornbeam)
- \*IAN TAMBLYN:Side By Each B  
 (海の生き物に心を寄せ、旅の思い出を回想するIanの心の唄は、本作において、一段と穏やか。ギターの美しい響きなど、ふと“High Winds White Sky”の頃のBruce Cockburnを思い出した。w. Rebecca Campbell{彼女のほわっとしたハーモニーヴォーカルはIanの音楽に欠かせなくなっている}, Fred Guignion, Pat Maher. 2013作。North Track)
- \*IAN TAMBLYN:Gyre B  
 (「四つの海岸プロジェクト」は一休み。地球を旅するIanのその感動の瞬間の心情が一枚の印象的な風景写真のように詩的に詠まれ、うたわれている。本作はW. G. Tamblyn{1923-2009}, Willie P. Bennett{1951-2008}, M/S Explorer{1968-2007}の霊に捧げられている。評価する隙を与えない名作。2009作。North Track)
- \*IAN TAMBLYN:Superior – Spirit And Light B  
 (本作は四つの海岸プロジェクトの1作目で、I. Tamblynが育ったところであり、音楽の旅のスタート地のスピリット湖と北西オタワに焦点を当てたもの。本作は青春時代を過ごした湖の生活に想いを馳せ、心遊ばせた唄たちが収められている。煌々ギターの演奏ほか生まれた音楽は細心の音作りが成され、Ianのまさに“Spirit and Light”に象徴される魂が乗り移った唄はかつてなくと言っても過言ではない程彼らしいヒューマンリーと詩情を高めている。2007作。North Track)
- \*IAN TAMBLYN:Angel's Share B  
 (Ian Tamblynらしい素晴らしいアルバム。旅するSSWのIanの目に映る世界はどれも霊的なほど美しく神秘的に輝いている。感動的な風景や旅の出来事の詩的描写の見事さは本作においてもなお絶品。w. Rodney Brown, Rebecca Campbell, Ken Kanwisher, Fred Guignion, etc. 2004作。North Track)

- \*JENN GRANT: The Beautiful Wild A  
 (カナダの女性 SSW、Jenn の 4 枚目。米国の女性 SSW の Meg Christian のよ  
 うなゆったりと漂うような唄なのだが、Jenn は深いポップ・ロック・サ  
 ウンド効果もあって、奥が深い。またイントロがクォンから始まり、Neil  
 Young の「孤独の旅路」っぽい 2 曲目から夢の旅路へと誘って、ラストの  
 12 曲目、子ども達の唄で終わったかと思っていると、しばらくして  
 Jenn のピアノの弾き語りという展開は長い夢の唄の旅をした気分  
 にさせる。ゲストは Daniel Ledwell。2013 作。Blue Rose)
- \*AMELIA CURRAN: Spectators A  
 (Amelia は絶望や寂しさの中から光を求めるような唄が多く、唄か  
 ら漂う雰囲気は Natalie Merchant を想起させる。闇の中で「キラ」の  
 素敵な唄たちだ。どこかで 70 年代 SSW のスピリットを引きずっている感  
 じだ。ゲスト: Oh Susanna。2013 作。Blue Rose)
- \*OLD MAN LUEDECKE: Tender Is The Night A  
 (ここ数年で最高にお気に入りのカナダの SSW。この自ら「老人」と名  
 づけたバンドが弾き SSW のおっさんが住む世界は、唄の世界も音楽  
 的にも田舎っぽい、同時に夢のような世界。その夢のような世  
 界がもう最高。なぜか Tim O'Brien がゲストをやっていて、様々  
 な楽器と唄で、まるで長年の相棒のようにわきあいあいと共演し  
 ている。本当に魅力的な SSW だ。2012 作。True North)
- \*DAVID FRANCEY: Live From Folk Alley A  
 (2005 年 11 月、Kent State Folk Festival でのライブ。伴奏は Shane  
 Simpson のギターのみ。David の唄の世界は流れる風景や絵本を眺め  
 ているように映像的だ。最後から 2 曲目の“Morning Train”は、キス  
 ト、ブツ、アアと駅や列車内で出会う唄だ。最後に出会うのは悪魔。  
 発想が面白く、実に面白い唄だ。全曲訳詩が欲しいところ。素晴ら  
 しい唄と一緒にフェスの空気も味わって欲しい。2012 作。Greentrax)
- \*MURRAY McLAUCHLAN: Swinging On A Star (1988 作。カナダ EMI) B  
 \*MURRAY McLAUCHLAN: The Songbook... New Arrivals a  
 (M. McLauchlan の本作は“Eddie”というミュージカルの為に Murray が作詞  
 作曲した 14 曲入。Murray の唄は古いジャズやポピュラーソングを唄うよ  
 うにソフトでスルリと粋なサウンドにのってうたう Murray の唄は気  
 持ちいい。2006 作。EMI)
- \*RAY BONNEVILLE: Bad Man's Blood a  
 (南部ロック志向 SSW の R. Bonneville の新作は南部魂を内にしっかりと  
 込めた泥臭い南部志向音楽。好きものには贅沢な料理だ。噛むごと  
 に舌鼓保証。Ray の最高傑作。2011 作。Red House)
- \*WAYNE ROSTAD: Storyteller (1991 作。Stag Creek) C  
 \*DAVID WIFFEN: South Of Somewhere (1999 作。True North) C  
 \*MAE MOORE: Folklore A  
 (カナダの自然や大地の自然現象や風景を入口に夢物語の世界へと誘  
 うカナダ人のセンスが微細に発揮された見事な女性 SSW アルバムだ。Mae の  
 唄はどの唄も自然や大地を描いた不思議な絵のよう。すぐにイメージ  
 するのはやはり Joni Mitchell。Mae の音楽性は丁度 Joni Mitchell  
 の初期からジャズっぽい“Court And Spark”までの幅でキラと光るサ  
 ウンドと唄とで魅了する。カナダの SSW の感性が光る名盤だ。2010 作。

Poetical)

- \*DEVON SPROULE:Don't Hurry For Heaven! A  
(カナダ生まれの米国ヴァージニア州の100人のコミュニティで育ったDevonの本  
作は60年代~70年代ロックの感触の諧謔的音楽を含め子悪魔的魅力  
全開。2010作。Black Hen Music)
- \*DEVON SPROULE:Upstate Songs A  
(2003年作。アコースティック演奏による軽やかにひるがえるヴォーカルの少女  
っぽさと新鮮さそして夢見心地さはすこぶる魅力。胸キュン。2003作。  
Tin Angel)
- \*JOHN WORT HANNAM:Queen's Hotel A  
(本作が四枚目というカナダのSSWのJ. W. Hannamの第一印象はRodney  
Brown。ヴォーカルの質も似ているが、Rodneyのようにマイペースで、温厚  
で、どこか爽やかな風が吹いているような感じも似ている。違うの  
はこちらの方がやや渋めというか、一歩引いた大人の哀感も感じ  
られることだろうか。さりげなさがとても快い良質のSSWアルバムだ。  
w. Steve Dawson, John Reischman, Jenny Whiteley, etc. 2009作。  
Black Hen Music)
- \*COLIN LINDEN:Sad&Beautiful World 1975-1999 A  
(The Band系南部ロックに深く傾倒するC. Lindenの初期音源中心の18  
曲入編集CD。2004作。True North)
- \*GREAT LAKE SWIMMERS:Lost Channels a  
(カントリー・ロック・ファン大推薦。かれらの音楽は70年代ロックに夢のヴォーカルを掛  
けた感じで、70年代ロック・ファンの弱い部分をくすぐる夢の音世界を創  
作し切っている。天下一品。2009作。イギリスNettwerk)
- \*FRED EAGLESMITH:Dusty A  
(Fredの本作は何と言うか鎮魂歌のように物悲しく緩やかに流れ  
てく。祈るようなFredのヴォーカルはじわりじわりと感動的。Scott  
MerrittのプロデュースはこれまでのFredのルーツ・ロック的音作りとは一  
線を画した自由な発想による唄のイメージに即したものの。絶品!  
Major Label)
- \*VEDA HILLE:This Riot Life A  
(通算12枚目になる個性的SSWのVedaの本作は不思議音楽。ピアノで音  
遊びしながら生まれたような彼女の唄は独り夢の中を旅する感  
覚の音楽。2008作。Ape House)
- \*VALDY & GARY FJELLGARD:Still In The Running A  
(副題"Contenders Two"。まさかの二人の嬉しい2枚目。齢を重ねた  
じいさんSSWお二人の温かな唄達。昔っから好きなValdyのヴォーカル  
は相変わらず。Ian Tamblynの"Bay Of Sails"やJohn Prineの  
"Speed Of The Sound Of Loneliness"やMicky Newburyの"Them  
Old Snogs"等二人それぞれがヴォーカル&デュエットで人なつっこそうな  
唄を二人の活きの良いギターとマンドリンの伴奏でうたう。ヒューマン・ソング・  
ファン、心あったか保証。2007作。Stony Plain)
- \*TIM WILLIAMS:Songster, Musicianer, Music Physicianer A  
(ボトネック・ギター等ブルース・ギターを弾き年季の入ったブルースやブルース風自  
作曲を悠々とうたう。長年活動を共にしているバンドが数曲で共演  
してはいるが、バンドのヴォーカル&ギターとしての印象よりブルース・タイプ

- のSSW的なものがある味わい。一匹狼の風格。2007作。Cayuse Music)
- \*EILEEN McGANN: Beyond The Storm (Dragonwing) A  
(カナダの女性SSWのJaneの本作は副題“Hymns of Earth”のクリスマス時期にあわせて制作された主に数世紀前のヘンデルやバッハ作曲曲を含む聖歌集。Janeならではの優美な聖歌の世界。2003作。Sheeba)
- \*ENNIS SISTERS: Christmas B  
(ニューファンドランドの美人3姉妹による美しいクリスマス・アルバム。トラッド・色も無いことも無いが、彼女等本来のフォーク〜カントリーなサウンドの姉妹の美声が活かされたフレッシュなクリスマス・アルバム。新年を祝うダンサブルな楽しい唄で幕。これはケブ・ブレント・トラッド・色濃厚なトラッド・ロック。2002作。Warner)
- \*TIM HARRISON: Tim Harrison ¥1000  
(名作79年作“Train Goin’ East”と85年作“In the Barroom Light”からの10曲を新たに録音したもの。99作。Second Avenue Songs)
- \*KENNY BUTTERILL: Just A Songwriter B  
(米国在住カナダ人SSW、Kennyの本作はバック&ゲスト{Willie P. Bennett, Ray Bonneville, Norton Buffalo, Joe Weed, Larry Hosford, Mary McGaslin, etc.}もばっちり固めたJ. J. Gale風似込み味SSWアルバム。2003作。No Bull Songs)
- \*RAY MATERICK: Rockin’ The El Mocambo 82 a  
(CD-R。“El Macambo Tavern”での82年の重厚ライブ。ギター、ベース、ドラムス、チェロ、サクソによるバックはドスト重戦車のパワー。Rayのヴォーカルは火の玉。スローもアップテンポも手に汗握る入魂のロック。2002作。KingKong)
- \*RAY MATERICK: Ashes And Dust a  
(CD-R。最も音作りばっちりの僕等が知る70年代のRay風。ベース奏者が懐かしいTim Drummond。Rayのしゃがれ声の唄とがっちり噛み合うタイトな70年代風ロック。すべてが理想のSSWアルバム。Steve Smithのスティール・ギターもMichael FanferraのオルガンもLisa Winn&Bob Lamotheのバック・ヴォーカルもいい味わいだ。抜群！2001作。King Kong)
- \*SCHULD&STAMER: You Got The Bread... We Got The Jam a  
(Stamerが全面的にヴォーカル。もうロックのJ. B. Lenoir作“Voodoo Music”からStamerの泥としたブルース・マジックの世界へ引きづり込まれる。ゲストのLong John Baldryもヴォーカルで4曲飛び入り。生きたブルース。絶句。98作。Blue Streak)
- \*SHANNON LYON: Tales Of A Yellow Heart A  
(2000年作“Summer Blonde”が人気だったS. Lyonの97年作。まるでNeil Young with Crazy Horse。粗削りな70年代風ロック。97作。Swallow)
- \*KATHY PHIPPARD: Outside Lookin’ In B  
(ニューファンドランドの個性派女性SSWのデビュー作。ピアノの弾き語りを中心に感情の起伏の大きな唄達は魅力。極めてカナダのSSW的個性。音作りも七変化。98作。Candle View)
- \*TAMMY FASSAERT: Corner Of My Eye A  
(ヴァンクーバー島ナナイモ出身のさわやかな女性SSWアルバム。ブルークラスとフォー



クがアコースティックに気持ちよくブレンド。彼女の濁りのなさは貴重。

2000 作。Tam Can)

- \*THE SWALLOWS:Turning Blue A  
(Blue Rodeo の Glenn Milchem が The Swallows という名で作ったデビュー・ソ。70 年代ブリティッシュ・フォーク~ロック的香り漂う不思議ロック。ジャケットもサイケ調。2000 作。Magnetic Angel)
- \*TONY KOSINEC:Almost Pretty A  
(T. Kosinec の 79 作の 4 枚目。2000 作。Vivid)
- \*SNEEZY WATERS:A Letter Home B  
(テキサス・ミュージックやブルースをベースにした雑食性に富むルーツ・ロック。Sneezyらしい個性が盛り込まれている。ヴェテランの風格。97 作。Watershed)
- \*GORDON LIGHTFOOT:A Painter Passing Through a  
(G. Lightfoot の本作は、清々しくもある種枯淡の境地。w. Daniel Lanois, Willie P. Bennett, Barry Keane, Terry Clements, etc. 98 作。Reprise)
- \*FRANCESCA:Au-Dela Des Couleurs B  
(フランス語、スペイン語、イタリア語、英語でつぶやくように、また情熱的に唄う地中海ムードの女性 SSWアルバム。かなりの本格派だ。99 作。BMG)